

平成18年6月11日
日本スクエアダンス協会

日本スクエアダンス協会功労者表彰規定の改定について

1. はじめに

現行表彰規定は、昭和51年の制定（日本スクエアダンス指導者連絡協議会規約として制定。その後昭和55年に日本スクエアダンス協会に引き継ぐ）以来5年毎に行われ、平成18年で第7回を数えることとなり、この間多数のSD愛好者の栄誉をたたえてきた。

しかしながら、総裁空席により総裁表彰が2回続けて行えないことをはじめ、表彰規定制定時と比べ現在の状況が現行規定にそぐわない面が見受けられることから、法人化となるこの機に規定の見直しを行いたい。

2. 改定のポイント

- ① 総裁表彰に代わる表彰項目の制定
- ② 現行は優良な愛好者を表彰することに重きがおかれていたが、今後は組織に貢献した個人・団体に重点を置くこと。
- ③ 法人化に伴い、県支部を含めた推薦組織の見直し
- ④ SD人口の平均年齢アップに対する対応
- ⑤ S協在籍年数及びダンス経歴の見直し

3. 改定点

(1) 表彰項目の明確化と継続年数について（別紙参照）

- ・団体表彰は、今後の継続的な発展を願う意味から、20年（現行10年）とした。
- ・個人表彰も団体と同じく20年（現行10年）とした。対象はクラブ内で貢献された方及び各クラブより選出される県支部運営委員クラス以上の、組織運営に従事し、普及発展に貢献した人とする。
- ・特別功労者表彰は、従来の総裁表彰に代わる物で、年数を30年とした。但し現行規定の継続性を踏まえ、過去に総裁表彰を受賞した人は除外としたい。（総裁表彰の規定だけは残したらとの意見があるが、また実現した時点で規定を改定するとしてい）推薦は統括支部、表彰特別委員会とする。
- ・社会貢献賞は新たに制定するもので、スクエアダンスを通じて著しく社会に貢献した個人・団体について、年数を問わず表彰できる制度としたい。推薦は県支部、統括支部、総務委員会からとする。
- ・友好団体・個人表彰については、団体表彰や個人表彰に合わせ20年（現行規定無し）とした。賞状は外部ということでA3サイズとする。

- ・退任役員表彰は従来通りとする。会長、副会長、理事、事務局の退任者で、発生の都度毎年のコンベンション時に行う。

- ・高齢者表彰については、在籍5年で75歳以上を対象とし（現行は在籍3年で70歳以上）、希少価値を高めたい。

- ・夫婦表彰は会員の大多数が単身であることなどを考えると存続を躊躇するが、男性会員獲得のためにも存続させたい。規定は従来通りの15年とする。

- ・同じ表彰項目で継続年数10年、20年、30年、40年ごとに表彰する案もあったが、確認作業が煩雑となることが想定され、出来るだけシンプルな形とした。

(2) S協在籍継続年数の改定

S協会員としての貢献を重んじ、ダンスの経歴は従来についてはS協在籍が5年以上であったものを、それぞれの表彰項目ごとの年数は、S協会員としての継続年数とした。

(3) 推薦組織の見直し（クラブ→県支部→統括支部）

従来は団体長からの申請に加え、県支部、統括支部からもより下位団体を推薦できることとする。また県支部を経由する事により、より精度の高い推薦とチェックが期待できる。

県支部の組み入れに対しては、県支部組織の整備が「全国的な進捗度から時期早尚」の声もあるが、本改定案の実施時期は5年後であることから、遅くとも5年後までには全国的に県支部の確立が望まれることから、あえて規定化した。